

2026

7月3日(金)

14:00~17:40 (13:30開場)

貧困と灼熱の キューバを生きる 人々と音楽

社会主義国キューバのリアルを知る
映画上映会&LIVE

概要と趣旨

社会主義の理想と現実の狭間で、キューバの人々はどのように生きているのだろうか。かつて「ブエナ・ビスタ・ソシアルクラブ」(1999)のヒットが、ノスタルジックで理想郷的なキューバのイメージを生み、観光産業を発展させた。しかしコロナ禍の打撃と米国による経済制裁によって、キューバは今危機的状況に追い込まれている。本講演会では、「世界で最も貧しく、最も熱い」とも言われるサンティアゴ・デ・クーバのカーニバルのドキュメンタリー映画を上映する。そして映画監督やキューバの専門家による討論を行い、社会主義国キューバのリアルについて理解を深める。またキューバ音楽の演奏家を招いて、その豊かな文化を聴衆と共有する。



立命館大学

衣笠キャンパス 以学館 101 (IG101)

- | | |
|-------------|----------------------------|
| 14:00-14:20 | 趣旨説明、登壇者紹介、
映画上映前の予備知識 |
| 14:20-15:40 | 上映会 “Lazaro and the shark” |
| 15:40-16:30 | トーク&質疑応答 |
| 16:40-17:40 | キューバ音楽ミニコンサート |

- *一般の方も参加可能、入場無料
- *途中参加・退出可
- *時間は変更する可能性があります

使用言語: 日本語、英語、スペイン語 (通訳あり)



「ラサロとサメ」

(Lazaro and the Shark, 2022, キューバ/スペイン/アメリカ)



ウィリアム・サブリン・オライリー

(William Sabourin O'Reilly)

ハバナ出身のアフロ系キューバ人。社会主義国キューバは、時に美化されたり、単純化されて語られるが、サブリンの作品はキューバ社会の現実の複雑さ、そこで生きる人々のリアルな日常を見せる。



ロス・オヨス地区のコンガのリーダー、ラサロは、優れたパレードをしたチームに授与されるコンガ賞を勝ち取りたいと奮闘する。昨年のチャンピオンに負けない壮観なパフォーマンスを作り上げるため、ラサロは地区の住民らと協力し、配給制のスーパーマーケットや町中を巡って奮闘する。はたしてその結果は...

主催: ヴァナキュラー文化研究会
共催: 立命館大学国際言語文化研究所

トーク&質疑応答

ウィリアム・サブリン・オリリー (William Sabourin O'Reilly) 【オンライン参加】



ハバナ出身、現在米国ニューオーリンズ在住の映画監督。ドラッグ中毒を克服するためペルーのアマゾンの共同体で生活する米国の若者とその家族を描いた「ねじれた線」(A Crooked Line, 2012)、サンティアゴ・デ・クーバにおける革命前から今日までの人種差別を扱った短編映画「肌の色のルール、記憶」(Código Color, Memorias, 2016)などの作品がある。「ラサロとサメ」は2023年、ポーランドのクラクフ映画祭で最優秀作品賞にノミネートされたほか、ベルギーのミレニアム映画祭でGolden Goal賞を受賞した。

関連企画



安保寛尚 (司会)

立命館大学教授。ラテンアメリカ文学、ヴァナキュラー文化研究者。特にキューバにおける植民地時代の反奴隷制文学や、20世紀前半の黒人芸術運動を研究している。共著に『モダニズムを俯瞰する』(中央大学出版部)、『辺境のラッパーたち』(青土社)、『ラテンアメリカ文学を旅する58章』(明石書店)、『キューバを知るための50章』(明石書店)など。クラシックギタリストとしても活動中。

伊藤嘉章

音楽ライター／文化・音楽研究者。アフリカ、プエルトリコに各5年、アメリカに1年在住し、カリブ20カ国、中南米13カ国、アフリカ18カ国を訪問して文化と音楽の関係を考察。音楽雑誌(『Jaz.in』『Latina』など)やWeb媒体で記事、作品紹介を多数執筆。鎌倉FM「世界はジャズを求めている」のパーソナリティも務める。共著に『カリブ・ラテンアメリカ音の地図』(音楽之友社)、『都市のリズム』(鹿島出版会)、『ゼロから分かる! ラテン音楽入門』(世界文化社)など。

キューバ音楽ミニコンサート



サンティアゴ・デ・クーバ出身のシンガー。アフロキューバ音楽に囲まれて育ち、芸術学校でギター、ピアノ、打楽器を学ぶ。2010年にキンテト・ニコ・サキート(Quinteto Nico Saquito)のメンバーとしてプロ活動を開始。2014年に日本に移住し、現在は東京を拠点に活動中。2022年にソロアルバム「Amor y silencio」を発表。ソングやサルサをベースに、日本の感性と融合した繊細なサウンドを生み出す。国内外のアーティストとのコラボも多い。



大阪芸術大学演奏学科打楽器科卒業後、キューバ、ニューヨーク、メキシコシティに渡り様々なパーカッションとダンスを習得。キューバでは、アフロ系宗教儀式やルンバの演奏で現地の演奏家と共に演奏を行う。現在はフリーのパーカッションリストとして、ラテンジャズやサルサ、ポップス、民族音楽など多様なジャンルで活躍中。Sabádo de la Rumba Osakaでルンバのワークショップを開催。



大阪府茨木市生まれ。東京、ニューヨークでパーカッションを学び、ウェストアフリカンダンス&ドラムカンパニー「アフリカングループ」で、ジェンベ・ドラミングを習得。マルチ・パーカッション奏者として活動するほか、国内外のアフリカ/カリブ音楽のミュージシャンとの共演も多い。Septeto Bunga Tropis、Diablo Marino、Ovalonや、自身のリーダーユニットYalaqweなどで演奏活動を展開。